

岡澤憲一郎 教授 略歴

1945年6月30日

神奈川県に生まれる

学歴

1970年3月

中央大学法学部法律学科卒業

1974年3月

中央大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了（文学修士）

1978年3月

中央大学大学院文学研究科社会学専攻博士課程単位取得満期退学

職歴

1978年4月

駒澤大学文学部非常勤講師

1980年4月

駒澤大学経済学部第二部非常勤講師

1982年4月

鹿児島経済大学（現：鹿児島国際大学）社会学部助教授

1989年4月

鹿児島経済大学（現：鹿児島国際大学）社会学部教授

1990年4月

名古屋学院大学経済学部教授

1994年4月

明治学院大学社会学部非常勤講師（1997年3月まで）

1996年4月

産業科学研究所（現：総合研究所）所長（2001年3月まで）

2002年4月

名古屋学院大学大学院経済経営研究科教授

2006年4月

名古屋学院大学人間健康学部教授（移籍）

2008年10月

学校法人名古屋学院大学理事（2009年8月まで）

2010年4月

名古屋学院大学スポーツ健康学部教授（改組移籍）

2016年3月

名古屋学院大学定年退職

2016年4月

名古屋学院大学名誉教授

学会及び社会における活動等

1973年2月

日本社会学会会員（現在に至る）

1973年2月

関東社会学会会員（2016年3月まで）

1978年3月

「放送と言語」研究会（1982年3月まで）

1978年6月

日本社会学会史学会会員（現在に至る）

1980年4月

地域情報研究会会員（1985年3月まで）

1988年4月

西日本社会学会会員（2016年3月まで）

1993年7月

学校法人名古屋学院大学評議員（1997年7月まで）

1994年4月	国際社会学会（ISA）会員（2002年3月まで）
1995年12月	ジンメル研究会会員（現在に至る）
2006年7月	学校法人名古屋学院大学評議員（2009年7月まで）

主要業績目録

著書

『生活構造の社会学』共著 中央大学出版部 1975.
『生活構造の社会学』（改訂版）共著 中央大学出版部 1976.
『近代社会学の諸相』（阿閉吉男教授定年退官記念）共著 御茶の水書房 1978.
『ジンメル社会学入門』共著 有斐閣 1979.
『生活変動と現代社会』共著 中央大学出版部 1979.
『生活過程の社会学』共著 八千代出版 1981.
『原子力船「むつ」の再母港化をめぐる利害対立とオピニオンリーダーの役割Ⅰ』共著 錦光出版
1982.
『原子力船「むつ」の再母港化をめぐる利害対立とオピニオンリーダーの役割Ⅱ』共著 錦光出版
1983.
『現代社会の社会学的諸相』共著 文化書房博文社 1983.
『放送とことば』共著 放送文化基金 1984.
『地域オピニオンリーダーの研究 ―原子力船「むつ」をめぐる意見対立の動態―』共著 中央大学出版
部 1985.
『現代社会の社会学』（佐藤智雄教授古希記念）共著 中央大学出版部 1989.
『現代社会の社会学的諸相』（改訂版）共著 文化書房博文社 1989.
『マックス・ウェーバーとエートス』単著 文化書房博文社 1990.
『21世紀への橋と扉 ―展開するジンメル社会学―』共著 世界思想社 2001.
『情報化と社会心理』共著 中央大学出版部 2002.
『ゲオルク・ジンメルの思索 ―社会学と哲学―』単著 文化書房博文社 2004.
『ジンメル社会学を学ぶ人のために』共著 世界思想社 2008.
『新版 ゲオルク・ジンメルの思索 ―社会学と哲学―』単著 文化書房博文社 2015.

学術論文

「マックス・ウェーバーにおける宗教社会学の位置」単著 『論究』第7号 1975.
「大潟村の地域特性とコミュニケーション（1）」共著 『国民生活研究』第15巻第2号 1975.
「家産制とカースト ―マックス・ウェーバーのばあい―」単著 『社会学評論』第27巻第1号（105号）
1976.

- 「組織化とコミュニケーション」単著 『駒澤社会学研究』第11号 1979.
- 『『社交性』理論からみた主婦向けワイドショー』単著 『主婦向けワイドショー番組にみる言語表現 ～言語学的・社会学的研究～』1979.
- 「興味・魅力・意味の社会学的三位一体」単著 『主婦向けワイドショー番組にみる言語表現 ～言語学的・社会学的研究～』(続) 1981.
- 「エートス概念の社会学的考察」単著 『社会学評論』第31巻第4号(124号) 1981.
- 「純粋社会学の可能性 ―ゲオルク・ジンメルのはあい―」単著 『鹿児島経済大学 社会学部論集』創刊号 1982.
- 「カリスマとエートス」単著 『鹿児島経済大学 社会学部論集』第7巻第2号 1988.
- 「理解社会学とエートスの社会学 ―マックス・ウェーバーのはあい―」単著 『地域総合研究』第17巻第3号 1990.
- 「官職カリスマと宗派のエートス ―西洋のエートス形成―」単著 『マックス・ウェーバーとエートス』1990.
- 「陶工集団の二類型 ―小石原焼と小鹿田焼―」単著 『地場産業研究』第15号 1992.
- 「社会科学としての社会学 ―ゲオルク・ジンメルのはあい―」単著 『名古屋学院大学論集(社会科学篇)』第29巻第3号 1993.
- 「貨幣の経済社会学 ―ゲオルク・ジンメルのはあい(上)―」単著 『名古屋学院大学論集(社会科学篇)』第33巻第1号 1996.
- 「貨幣の経済社会学 ―ゲオルク・ジンメルのはあい(下)―」単著 『名古屋学院大学論集(社会科学篇)』第34巻第3号 1998.
- 「ジンメルの貨幣観 ―マルクス批判からウェーバーへ―」単著 『ジンメル研究会会報』第6号 2001.
- 「ジンメルの生の哲学 ―その生成と現代的な可能性―」単著 『ゲオルク・ジンメルの思索 ―社会学と哲学―』2004.
- 「ウェーバーの宗教観 ―『近代の経済エートス』の形成―」単著 『名古屋学院大学論集(社会科学篇)』第51巻第3号 2015.

翻訳・辞典等

- Yoshio Atoji, *Sociology at the Turn of the Century*, Co-transl., Dobunkan Publishing Co., Ltd. Tokyo, 1984.
- アルノルト・ツィンゲルレ『マックス・ウェーバー ―影響と受容―』共訳 恒星社厚生閣 1985.
- Yoshio Atoji, *Georg Simmel's Sociological Horizons*, Co-transl., Ochanomizu-shobo, Tokyo, 1986.
- 『社会学事典』(見田宗介、栗原彬、田中義久編)共著 弘文堂 1988.
- 『新社会学辞典』(森岡清美、塩原勉、本間康平編)共著 有斐閣 1993.
- 『『ゲーム形式としての愛』と絶対的な愛』単著 『ライフサイエンス』Vol. 12/No. 10 [206号] 1985.
- 「ジンメルとパーソンズ」単著 『ジンメル研究会会報』第5号 2000.
- 「ウェーバーとジンメル ―二つの作品の一断面―」単著 『名古屋学院大学論集(人文・自然科学篇)』第48巻第2号 2012.